

事業名	ボランティア入門講座		
開催日時	令和元年5月25日、9月28日、11月23日、令和2年1月25日		
講師	上本、川崎、佐藤、末武、古田	形態	講座
参加者数	109名（平均27.5名）	満足度	4.4(5点満点)
目的	ボランティアを始めたい方に対してボランティアの基本を学んで貰う。		
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア発展の歴史、ボランティア3原則 ・ボランティアを始めるにあたって ・NPOやボランティア団体の活動 		
アンケート調査結果		会場の様子	
<ul style="list-style-type: none"> ・男女の参加比率は約1：4であり、男性の参加者の少なさが目立つ。男性の心理的に講習の場に出てきづらいかもしれないが、男性が参加しやすいような工夫を検討する価値はあるだろう。 ・ボランティア経験のある参加者は57%となり、「入門講座」としては多少多いという印象である。 ・参加者の年齢は60歳以上が約9割を占めている。10%に満たない59歳までの参加者を増やす試みが求められる。 ・講座への評価は4.4と高い水準であり、受講者は内容に満足していると考えられる。 ・今後のボランティア活動の予定については、多数が「考えたい」であるが、毎回2名以上「今すぐに始める」「相談したい」と答えており、新しくボランティアを始める人がいる。 			
参加者の意見		担当者より	
<ul style="list-style-type: none"> ・「ボランティアの3つの原則」を分かりやすく説明してもらった。よく理解できた。ボランティアの原則、色々ある。思っているより、難しい。 ・映像による活動紹介は非常に良かった。 ・1日中なにもすることがない虚しい日がある。誰か困った人のため、そんなとき何か喜んでもらえることができれば嬉しいと思い、参加しました。 ・自分に合うボランティアを探ることがわかりました。 ・本日のボランティア講座は今までと違って、知らなかったことが多くて、大変勉強になりましたが、今回一度だけでは理解するのはむりですので、次回も今回のような話しが聞きたいと思います。（奈良市条例指定制度） ・「してあげる」と上からの目線ではいけない。対等に接することを痛感。 		<p>講座自体の満足度は高く、講義内容は今後も研鑽を積みながら向上を目指す。参加者は毎回ほぼ定員に達しているが、一定の層に偏りがある。若年層はボランティアについて、学校などで基本的なことの理解しているの方が多いのかも知れないが、多様な世代が参加出来る様に工夫をしていくことは必要だ。内容的には、参加者にリピーターが増えていることを踏まえ、ボランティア技術の向上を目指した経験者向けの内容を埋め込むか、それとも全くの未経験者が参加したくなるような内容にしていくかなど、創意工夫をもって内容を凝らし、よりボランティア活動、NPO活動に関わる人の増加や活動の意義の理解の深化を目指していきたい。</p>	

事業名	ならママを応援するボランティア講座		
開催日時	①令和元年6月12日(水)、②6月19日(水)、③6月26日(水)、④7月3日(水)、⑤7月10日(水) 各回10:00~12:00開催		
講師団体名	①日本結婚教育協会、②奈良姿勢向上倶楽部、③はぐくみ生涯学習グループ、④奈良友の会、⑤たびっぱの会		
参加者数	受講者のべ49名 (お子様のべ49名)	託児ボランティア人数	10名 (①7名②10名③10名④9名⑤9名)
目的	子育て中の方々に各団体の活動内容を知ってもらい、今後の社会貢献や生活向上に活用してもらう。また、お子様連れでもできるボランティア活動へとつなげていく。		
実施内容	①「学びませんか？笑顔になれる居場所づくり」②「ママの為の姿勢講座」③「手話であそぼう♪」 ④「忙しいお母さんのテキパキ料理」⑤「布ぞうりストラップをつくろう！」		
	アンケート調査結果	会場の様子	
	<ul style="list-style-type: none"> ・今回もためになる楽しい講座をありがとうございます。 ・ここに居るだけで心が楽になりました。とても楽しかったです。 ・久しぶりに子どもから少し離れて集中してお話を聞けました。子どももキッズスペースで楽しめていたようで良い時間を過ごせました。 ・託児をしていただきながら、親が学べる機会というのは、大変ありがたいことで、また今後も開催していただきたいと思いました。 ・1時間くらいの短時間でしたら、もっと参加しやすいと思いました。 ・あそびスペースが充実していてよかったです。 ・ボランティアスタッフさんの人数が多く、月齢の低いお子さんも多いため、保護者の皆さんも安心して講座受講でき、大変有難い取り組みです 	 	
		↑ 講座の様子①	↑ 講座の様子②
			
		託児の様子→	
	受講後、親子ボランティア活動参加		
	◇缶バッチづくりボランティア (HUG ² 祭り市民配布用)		
	11月18日 大人1名、子ども2名		
	11月22日 大人3名、子ども6名		
	◇受付、メダカコーナーボランティア (HUG ² 祭り当日)		
	12月 1日 大人3名、子ども3名		
		↑ 講座の様子③	↑ 託児Vと一緒に集合写真

事業名	スポーツボランティア講座																				
開催日時	令和元年6月22日(土) 13:30~15:30	奈良マラソンのボランティア! 「こんなとき! どおする」について事例ワーク																			
令和元年9月1日(日) 10:00~15:30	(前半と後半2回に分けて開催) 2020年東京大会「ポッチャを体験しよう!」																				
令和元年10月26日(土) 10:00~12:00	生涯を健康に暮らしましょう!																				
令和元年11月9日(土) 10:00~12:00	スポーツボランティア研修会~スポーツボランティア活動のやりがいや楽しみ方を知る~																				
講師	①奈良マラソン実行委員会事務局 東久保史郎氏 ②大阪府立大学ポッチャ部学生さん ③株式会社オアシスなら訪問看護ステーション所長渡野和代氏 ④JSVNB日本スポーツボランティアコーディネーター江崎幸子氏 スポーツボランティア東京所属 三谷明男氏	形態	①講座: ボランティア活動紹介とワークショップ ②体験学習 ③講座: 講演 ④スポーツボランティア養成プログラム/スポーツボランティア研修会																		
参加者数	①31名 ②全66名 ③30名 ④20名	満足度	①80% ②100% ③90% ④70%																		
目的	スポーツボランティア講座を通じて誰でも参加できることや、仲間を作り、また、身につけたことを生かして、積極的に地域や社会に関われるようになることができるようにする。																				
実施内容	①奈良マラソンボランティア活動紹介と現場での困ったときの対応についてワークショップ ②2020東京大会 競技種目「ポッチャ」体験学習会 ③健康講座/健やかな日々のための基礎知識などについて講演 ④スポーツボランティアについて/コミュニケーションスキルについて																				
アンケート調査結果		会連の様子																			
<p>①~③回</p> <table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>よかった</td> <td>96</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ふつう</td> <td>9</td> </tr> </table> <p>アンケート提出...105名 参加者数...127名</p> <p>スポーツボランティア研修会内容</p> <table border="1"> <tr> <td>満足</td> <td>5</td> <td>やや不満</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>やや満足</td> <td>8</td> <td>不満</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>どちらでもない</td> <td>2</td> <td>無回答</td> <td>1</td> </tr> </table> <p>アンケート提出...17名</p>		1	よかった	96	2	ふつう	9	満足	5	やや不満	1	やや満足	8	不満	0	どちらでもない	2	無回答	1	<p>奈良マラソンボランティア ←</p> <p>ポッチャ体験</p> <p>健康講座</p> <p>スポーツボランティア研修会</p>	
1	よかった	96																			
2	ふつう	9																			
満足	5	やや不満	1																		
やや満足	8	不満	0																		
どちらでもない	2	無回答	1																		
参加者の意見																					
<p>(第1回)・数年前から家族で募集される様々なボランティアに参加するようになって、生活のひとつの楽しみになっています。</p> <p>(第2回)・どういスポーツかなあと興味ありましたが、簡単であり、やってみると意外と難しいのがわかりました。・回数を重ねるたびに楽しさが増しました。チームワークもよくなり、コミュニケーションでワイワイ楽しかったです。</p> <p>(第3回)・スポーツを通じて人と人とのつながりがあればと思い、色々な行事に参加しています。・渡野先生の講義をもっともっと聞きたいです。健康のため元気になるため、素晴らしい先生にめぐり会えてうれしいです。(第4回)・分かりやすい内容でした。体験なども興味深く聞きました。</p>																					

事業名	NPOのための資金調達入門講座 全2回 ～「ファンドレイジング」基礎編～			
開催日時	令和元年10月19日(土)	/	11月2日(土)	10:00～12:00
講師	ならファンドレイジングラボ 代表 西村 昌弘 さん	形態	講座	
参加者数	第1回 17名	第2回 21名	満足度	ポイント平均(10点満点) 第1回 9.33P 第2回 9.1P
目的	NPOの資金調達の基礎、および「クラウドファンディング」の具体的な事例やアプローチの方法を学び、各団体の運営に活かしていただくことを目的とする。			
実施内容	第1回 「NPO団体の資金調達 基礎編」 ・NPO団体にとっての財源とは? ・いろいろな資金調達の方法 ・自団体にあった資金調達の選び方 等 第2回 「クラウドファンディング」 ・クラウドファンディングとは? ・運営会社の最適な選び方 ・実際に使ってみよう ・クラウドファンディングのこれから 等			
アンケート調査結果より(原文のまま)			会場の様子	
<第1回> ・資金調達をすることは難しいと感じていましたが、分かりやすい説明で、目的や解決策を明確にしていけば、小さなことから始められるように感じました。 ・まだ初期段階の時点で、少しハードルが高く感じた。 ・資金調達の話だけでなく会の運営等、もっと大切なコアの部分に気づかせていただきました。 ・非常によかった。(ほぼ満点。でももっと何かがあるのかを期待して)。わかりやすい資料と解説。質問に対し、適切かつ丁寧な応え。				
<第2回> ・クラウドファンディングについての考え方がとても深まり、資金調達以上の「価値」を感じました。根本的な考え方を見直しが必要と感じました。人と人、相互、win win の関係性の重要性 等。 ・そもそもファンドレイジングとは「何ぞや」からのスタートでしたので、分かり易い説明だったので助かりました。実施へのハードルは高そうですが。 ・資金の事だけでなく、仲間作り、広げていくことが大切なことを再度理解できた。 ・クラウドファンディングのセミナーの機会が今までなかったので、本当に有り難く思います。				
担当者所感 等				
・昨年より一層わかりやすく話していただき、受講者が講師の意図を的確に受け取っておられると感じました。1回目を受講された方が知り合いに薦めてくださり、2回目の申込が増えたことも嬉しかった。				

事業名	NPO会計支援講座「初めの一步 ～会計が怪計にならないために～」 <全3回>											
開催日時	令和元年	5月18日(土)	/	9月21日(土)	/	令和2年	1月18日(土)		いずれも	10 : 0	~	11 : 30
講師	紙徳 真理子 さん 澤田 清 さん			形態	講座							
参加者数	第1回 18名 第2回 7名 第3回 8名			満足度	ポイント平均(10P満点) 第1回7.9P 第2回7.5P 第3回8.6P							
目的	NPO法人やボランティア、自治会等、市民公益活動団体の担当者が、よりわかりやすい、透明性の高い会計処理ができるようになること、具体的には、財務諸表の作成までできるようになることを目的とする。また、企業会計とNPO会計の違いを「NPO法人会計基準」を基に考察し、NPO会計の特徴についての理解を深めてもらう。											
実施内容	第1回 「NPOの基本のキ（NPOを運営するにあたって）」 「NPO法人会計基準に準拠したサンプルの提示、および事業費と管理費について」 等 第2回 「方向を見誤らないための財務諸表の扱い方」 等 第3回 「NPO法人会計基準に準拠した財務諸表を作ってみよう」 等											
参加者の意見（アンケート調査結果より 原文のまま）								会場の様子				
<第1回> ・NPO法人における会計の在り方について知ることができてよかった。まだ設立準備段階の為、実際に動いている法人の方のお話しは勉強になりました。 ・講座名(内容)がNPO法人を対象にした講座ゆえ、少々高度な内容で、勉強になった部分と参考外のに分かれた。 ・お話が明確でよくわかった。NPOについてのキーポイント、初めの一步がよく理解できた。												
<第2回> ・複式簿記についてとその良い点がわかりました。 ・情報量が多いことはありがたいが、焦点がどこにあるのか、頭の中で昇華させるのが大変でした。 ・参加する団体の活動に直に活かせるよう具体的事例にもっと触れた内容だとよいかと思います。												
<第3回> ・何のためにわかりやすく のか 目的という大まかな主旨を理解 ・注記の重要性、その書き方が分かった。人件費、謝金などの取り扱い方が明らかになった。 ・参加者の質問に丁寧に応えてくれ、助かりました。そのため、疑問点が解消しました。												
担当者所感等												
「経理スキルや課題、団体の状況等が大きく異なっている受講者を前に、どのような『講座』を展開したら有益なものになるか」について、講師と連携しながら模索した1年だった。個別の質問に対し丁寧に対応したことには一定の成果が感じられたが、ニーズを絞り切れず、後半は欠席者も多く出てしまった。												

広報デザイン講座

日時	令和元年 ①12月14日(土) 15:00~16:30 ②12月21日(土) 14:30~17:00 令和2年 ③1月11日(土) 14:30~17:00 ④1月18日(土) 13:00~18:00 ⑤2月1日(土) 14:30~16:00 以上、全5回連続講座
講師	林田全弘さん(小さなNPOを応援するデザイナー)
形態	講義・制作指導・ワークショップ・個別相談
参加者	6人(4団体)
満足度	100% (※最終日アンケートで記入者全員が講座内容について「良かった」を選択)
目的	イベントや企画の広報チラシを魅力的につくるノウハウやコツを身につけ、団体の情報発信ツールとしてチラシを有効活用してもらう。
概要	各団体が実際に開催予定のイベントや企画をもとに、チラシ制作の基本的な考え方や技術を学び、最終的にA4サイズのチラシを完成させる。

参加者アンケートの声

- 実際にチラシを作ることによって、具体的なアドバイスを頂けるのが良かった。
- 他団体のチラシも皆でディスカッションするのが良かった。自分の思いつかない作品(チラシ)を見ることができて勉強になった。
- 「読み手の立場でチラシを作る」という考え方を持たずに今まで作っていたんだと目からウロコでした。他にも、思ってもみなかったポイントがいっぱいでした。
- 知らないことばかりでしたが、変な質問にもきちんと先生からお答えいただけて、ありがたかったです。
- チラシを作りたいと思っても、具体的に何から始めれば良いのか想像もできなかったのですが、素人の自分でもチラシ作りができたことに、まず驚き、いちばん良かったです。これに味をしめて(笑)、さらにチラシ作りを頑張りたいです。
- 褒め上手な先生で、何やら不思議な自信を持たせていただきました。
- ラフスケッチを教えていただくことで、団体の伝えようとしている内容が明確になった。また、相手が喜んでくれるチラシ、相手にとってわかりやすいチラシ作りを学ぶことができた。
- (チラシ作りの過程で)自分たちの団体活動のメリットやデメリットを、じっくりと考えることができました。
- 「伝わるチラシ」「(チラシを受け取る)相手の立場で考える」ということを忘れて「自分の作りたいチラシ」にならないよう、気をつけたいと思います。

講座の様子



事業名	多様な人権尊重のための「生きづらさ」を理解する連続講座 (コロナウィルスの影響により事業中止)		
開催日時	令和2年2月29日、3月7日、3月14日、14:00~16:00		
講師	第1回：石田まりさん（社会福祉士）、第2回：安井秀仁さん（公認心理師）、第3回：山口裕司さん（臨床心理士）		
参加者数	0人	満足度	なし
目的	人権に関する課題についての講座を実施し、参加団体が人権感覚を向上させ、様々な人の人権が守られる組織づくりに貢献する。		
実施内容	第1回：性的マイノリティ、第2回：発達障害がある方の生きづらさ、第3回：男性の生きづらさを内容に実施する予定だったが、コロナウィルス拡大防止の為、全ての回を中止した。		

配布チラシ

奈良市ボランティアポイント対象事業

あなたに向き合う
自分に向き合う

photo by Jeremy Goldberg on Unsplash

「多様な人権尊重のための『生きづらさ』を理解する」連続講座

第1回
性的マイノリティ
～性の多様性～
2月29日（土）14:00～16:00
奈良市ボランティアインフォメーションセンター

講師 石田まりさん
【性の多様性啓発団体】フダバシティブロジェクト立ち上げ人
社会福祉士、大阪府立大学博士前期課程、不登校サポートハウス マーブルハウス運営人

対象 奈良市を中心に活動するNPO、ボランティアグループなど市民公益活動団体
及びテーマに関心を持つ市内在住の方

申込 電話、FAX、メール、窓口にて受付。氏名、住所、電話番号を明記の上、2月22日（土）までに裏面の連絡先まで申し込み。定員30名。定員超過の場合抽選。落ちた方のみ連絡。
主催：奈良市ボランティアインフォメーションセンター

わかる ↓ かわる

奈良市ボランティアポイント対象事業

「多様な人権尊重のための『生きづらさ』を理解する」連続講座

第2回
発達障害のある方の生きづらさ
photo by yepichu/shutterstock

講師 安井秀仁さん
公認心理師、放課後等デイサービス児童指導員
対人援助学会理事、立命館大学博士後期課程

日時 3月7日（土）14:00～16:00
場所 奈良市ボランティアインフォメーションセンター

対象 奈良市を中心に活動するNPO、ボランティアグループなど市民公益活動団体
及びテーマに関心を持つ市内在住の方

申込 電話、FAX、メール、窓口にて受付。氏名、住所、電話番号を明記し、2月29日（土）までに裏面の連絡先へ、定員30名。定員超過の場合抽選。落ちた方のみ連絡。
主催：奈良市ボランティアインフォメーションセンター

奈良市ボランティアポイント対象事業

男であることを
ときほぐす

「多様な人権尊重のための『生きづらさ』を理解する」連続講座

第3回
男性の生きづらさ
Photo by Jesper Aggergaard on Unsplash

3月14日（土）14:00～16:00
奈良市ボランティアインフォメーションセンター

「男性が生きづらい？」と言われても、ピンと来ないかもしれません。ですが、「これが男らしさだ！」「男なら〇〇すべき！」、こんな価値観に縛られ息苦しくなっている男性もいらっしゃいます。本講座では男性相談のカウンセラーの山口さんをお招きして、男性ならではの生きづらさを学びます。男性が生き生きできる組織や活動づくりの第一歩にしませんか！？

講師 山口裕司さん
日本男性相談フォーラム、カウンセリングオフィス天満橋、臨床心理士

対象 奈良市を中心に活動するNPO、ボランティアグループなど市民公益活動団体
及びテーマに関心を持つ市内在住の方

申込 電話、FAX、メール、窓口にて受付。氏名、住所、電話番号を明記の上、3月7日（土）までに裏面の連絡先まで申し込み。定員30名。定員超過の場合抽選。落ちた方のみ連絡。
主催：奈良市ボランティアインフォメーションセンター

参加者の意見

中止の連絡をした際の市民からの声として「このテーマ（性的少数者）は広く知っておくべき内容。中止は本当に残念。なんとか、開催を復活してほしい」「自身の関係者に関わるテーマだったので申し込んだ。知っておくべきテーマ（男性の生きづらさ）だった。別の機会があることを期待します」と中止を残念がる声が複数頂いた。これらの声を今後の開催予定の参考にしたい。

事業名	NPO設立運営相談会（毎月1回開催、第3木曜日）※3月はコロナウィルス拡大防止のため中止		
開催日時	平成31年4月より毎月開催（全12回-4/18、5/16、6/20、7/18、8/22、9/19、10/17、11/21、12/19、1/16、2/20）		
講師	磯野 奈緒	形態	個別相談
相談件数	34件	満足度	5(全解答で5の評価)
目的	資金集め、利用者拡大、広報力向上といった運営をさらに発展させることに頭を悩ませている団体や、法人格を取得しようとしている団体や法人を立ち上げたい個人からの相談へ対応することで、奈良市の市民公益活動団体の活性化を目指す。		
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> • NPO法人の設立に関する要件や諸手続きについて • NPO法人運営上に必要な諸手続き（必須業務、労務、税務、法務等）について • 広報、運営資金獲得、事業計画、人事、利用者拡大など団体運営に関する事柄 		
	アンケート調査結果	相談内容	
	<p>全ての利用者のアンケートにおいて、全ての解答にて満足度が満点である「5」であり、満足度が100%となっている。また、利用率は84%と高い数字となっている。</p> <p>相談内容はNPO設立に関しては10件、運営に関して24件と運営の方が優位である。運営相談の中身については「年度末に必要な書類の確認」「NPO法人として必要な事務処理」「寄付やボランティア集め」など多岐にわたった。立上げ初期の団体にとっては運営に必要な基盤づくりに、活動して数年と言った団体には活動のベースアップ、として相談を利用いただき、相談者のニーズに合わせて幅広く対応ができたと言える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 鹿が食べても大丈夫な紙袋をつくり、奈良の鹿ブランドを向上させる取り組みを始めたい。 • NPOを始めるにあたって、事業の経費を徴収しても良いのか。 • 18年続いている任意団体だが、若返りとNPO法人化を検討している。 • 新しい農法を用いた野菜作りをしているが、農業体験などの事業を展開を考えている。 • 県へ提出する事業報告書の確認をしてほしい。 • 性的マイノリティの方のための事業を考えているが、拠点が差別的な目で見られないだろうか。 • 謝礼に伴う源泉徴収のあり方について教えてほしい。 • 各事業の進捗確認や今後の方向性について一緒に検討してほしい。 	
	参加者の意見	担当者より	
	<p>「今後の見通しがたった」「自分がどこに向かえばいいかわかった」「問題点が解決できた」などの意見があがり、運営や事業の方針を考えることに貢献できたと言える。その他「質問に丁寧に答えて頂いた」「一緒に考えてくれるのがありがたい」と対応の在り方に関して好意的な意見も複数ある。相談対応の質の高さがうかがえる。</p> <p>また、「定期的に相談することで推進の区切りに行うことができる」と継続的に相談できる場としても機能し、それが団体に貢献となった。今後も、継続相談と新規相談のバランス調整を図りたい。</p>	<p>アンケートの満足度が5点満点であり、相談対応の素晴らしさが表れている。相談内容は多岐にわたり、NPOの立ち上げ、資金調達、ボランティアマネジメントなどNPOの運営に関することについて幅広く対応いただいた。リピーター相談も多く、並走型の支援としても機能した。</p> <p>この水準でNPO設立や運営の相談ができていることは、当市のNPO活動の底上げにとって大きな価値があると言える。</p>	

事業名	NPO会計個別相談会（全5回）		
開催日	令和元年 5月18日(土) / 7月20日(土) / 9月21日(土) / 11月16日(土) / 令和2年 1月18日(土)		
講師	紙徳 真理子 さん 澤田 清 さん	形態	個別相談会
参加者数	のべ22人	満足度	
目的	NPO法人やボランティア、自治会等、市民公益活動団体の会計上の課題、相談事について、個別に対応し、解決を図る。		
実施内容	原則、5月18日、9月21日、1月18日は、同日開催の「NPO会計支援講座」の前後にそれぞれ1枠ずつ、7月20日、11月16日は4枠を設定したが、申し込み状況等に応じて柔軟に対応した。事前の聞き取り、エントリーを受けた上で、内容を講師に伝え相談に対応してもらう。		
相談申し込み団体		会場の様子	
第1回（5月18日 土）			
① E-Vision・Japan ② (仮) 川辺のまちづくり協議会 ③ フードバンク奈良			
第2回（7月20日 土）			
① (仮) 川辺のまちづくり協議会 ② E-Vision・Japan ③ E-Vision・Japan			
第3回（9月21日 土）			
① E-Vision・Japan			
第4回（11月16日 土）			
① 奈良県精神障害者家族会連合会（まほろば会） ②まほろば会 ③まほろば会			
第5回（1月18日 土）			
①NPO法人市民省エネ・節電所ネットワーク ②精神障がい者家族会「あらくさ会」/まほろば会			
相談概要		所感	
E-Vision・Japan：予算の大半が代表とからの寄附となっている状態の改善について 等	・前半は「E-Vision・Japan」に、後半は		
(仮)川辺のまちづくり協議会：地域の自治組織の再編成に伴う会計処理、統合の仕方について 等	「まほろば会」に、伴走することができた。		
フードバンク 奈良：任意団体からNPO法人化する際に伴う会計処理(残余処理等)について 等	・講師が臨機応変に対応してくれた。総会前		
まほろば会：認定NPO法人化を目指している。そのための会計処理の適正化について 等	等は、相談日の前後もメールで対応していた		
市民節電所ネット：謝金、交通費、また受けている助成金に対応する人件費の処理の方法について 等	だき、相談者から感謝された。		
あらくさ会：特別縁故者の対する相続財産分与の計上について 等	・今後は相談団体数の増加を図りたい。		

事業名	NPOのためのSNS運用相談（全3回）		
開催日時	令和元年 7月25日、8月29日、9月26日（11:00～16:30）		
講師	古田 穰之	形態	個別相談
参加者数	5ケース（6名）	満足度	4.75
目的	以下の事に貢献する。 ①団体が情報発信の課題を把握する。 ②活動内容や規模を踏まえて、情報発信にどのようなメディアを用いるかを判断する。 ③SNSを含むインターネットメディアの特徴や利点を確認する。 ④各メディアの特性にあった情報発信の仕方を工夫する。		
実施内容	団体の情報発信における課題の整理、各メディアの特徴の理解、団体に適したメディア利用の工夫、などを取り扱う相談に対応する。		
アンケート調査結果		相談内容	
<ul style="list-style-type: none"> 5件のケース中、アンケート回収数は4/5だった。 評価は5,5,5,4と概ね好評だったと言える。 SNSの運用が進んだというより、情報発信の必要性が高まったという声の比重が高い。 「SNSよりもHP開設をまずは目指す」「ひとまず操作に慣れてから」と今後の方針を立てられた。 		<ul style="list-style-type: none"> 団体に適切なSNSはどれがよいか HPを作りたいが、どうしたらよいか。簡単に作れるものか。 HPを良くしたい。 twitter、facebookを個人では使っているが、団体での利用はしたことがない。相違点はどのようなものか。 人手があまりいない。負担を少なくSNSを始めるにはどうしたら。 連絡網をインターネットで作るにはどうしたらいいか。 SNS、ブログ、HPの違いは何か？ 	
参加者の意見		担当者より	
<ul style="list-style-type: none"> SNS自体は個人情報保護の観点から運用には至っていない。ただ、相談により広報への意識が高まり、紙媒体でのチラシのブラッシュアップに取り組んでいる、という事後報告もあった。 取り組もうと思っているが、実際的にはまだ手が付けられていない。事業が落ち着いている時期に取り組みたい。広報や情報発信への意欲は高まっている。 		実際的な運用に至っていない団体が多く、簡単に継続できる運用方法を重点的な相談方針として定めても良かったと反省している。また、SNS運用に取り組んでいる団体の様子を見たところ、更に投稿の質を高められると考えている。団体によって課題が異なるため、一括的な講座形式での運用助言は不向きであるため、月ごとに相談のテーマを設けるなどの工夫をし、参加者の参加意欲を刺激することを検討したい。	

「私たちは集めています！」回収BOXコーナー

期 間	令和元年7月8日（月）～令和2年6月30日（火）
形 態	常設の「不用品・寄贈品」回収BOXコーナー
内 容	使用済み切手やベルマークなど、社会貢献活動の一環として様々な物品を集めている登録団体の回収BOXを、当センター内に常設設置する
参加団体	5団体 ①おもちゃ病院 …「不要になった玩具・壊れた玩具」を回収 → 修理・清掃のうえで市内の保育園や幼稚園に寄贈する ②ミモザの会 …「不要になった文具類」を回収 → YMCA を通じて海外の貧しい子どもたちへ寄贈する ③奈良県ユニセフ協会 …「使用済み切手・書損じハガキ」を回収 → 換金後に日本ユニセフ協会を通じて海外の貧困子ども支援に活用 ④Best Smile …「ベルマーク・使用済みインクカートリッジ」等を回収 → 朝日新聞ベルマーク財団を通じて国内の被災地支援に活用 ⑤NPO 法人チョウタリィの会 …「不要になったメガネ・タオル」を回収 → 団体が長年支援しているネパールの公立小学校へ寄贈する
目的	同コーナーを、多くの市民の目に触れる場所へ常設することによって、団体それぞれが独自に集めるよりも効果的な回収量が期待できる。また市民の身近な場所に設置することによって、市民が気軽に不用品を持ち寄ることができ、社会貢献活動へ関心を持つ機会にもつながる。

設置の様子



事業名	協働事業 「先天性奇形の鎖肛と向き合うセミナー」		
開催日時	令和 2 年 1 月 25 日 (土) 14 : 00 ~ 18 : 00		
主催団体	地域で一緒に支え合う会 (鎖肛当事者の会)	形態	セミナー
参加者数	42名 (内、手話2名/要約筆記4名を含む)	満足度	70%
目的	先天性鎖肛という病気をより多くの方に知ってもらい病気によっておこりうる後天性障がいも理解してもらう。		
実施内容	第1部 セミナー ①「鎖肛」当事者の体験談②「鎖肛」の家族その思い③医療の今、そして未来 (一般参加可) 第2部 グループ相談会&交流会 (鎖肛当事者とその家族のみ参加可)		
	参加者の意見	会場の様子	
	<ul style="list-style-type: none"> 相談会では、鎖肛当事者及びその家族とのグループLINEをつくり、日々の悩みなどがあればいつでもどこにいても連絡を取り合い相談できる、環境をつくることができ、当事者やその家族に寄り添った相談会となった。 ゲスト講師の先生が、現役の看護師で医療に携わっている立場からみて当事者やその家族の心の変化を切実に話してくださり、病気に打ち勝つには当事者はもとより家族の支えがとても大切なことを学んだ。 (乳児とその両親が参加) 遠方より宿泊までしてセミナーに参加した。子どもが鎖肛で、この先どのようなことになるのかを知っておきたいと思い参加した。相談会でより深い話が聞けたのでよかった。 また開催をしてほしい 相談会で当事者(娘)とその母が参加をしており、娘さんが生まれてまもなく鎖肛の手術を受けたので当事者本人は大人になるまで知らずにいたらしい。その母親もいつ娘にその事を言おうか悩んでいた事を聞き、とても子を思う親の気持ちが理解でき感動した。 		

事業名	NPOとボランティア団体パネル展（前半・後半）全9クール																
開催日時	令和	元年	6	月	1	日	（土）	～	令和	2	年	3	月	1	4	日	（土）
展示団体	登録団体他								形態	申込団体による4週間（前・後半）全9クールパネル展示							
参加者数	前半クール48団体 後半クール27団体 合計75団体								満足度	出展団体：展示期間、展示スペース「ちょうどよい」99% 一般：アンケート参照							
目的	奈良市を中心に活動するボランティアグループやNPO、市民公益活動団体の活動について、市民にその意義をより深く理解して頂き、広くボランティア、NPO活動などへの関心を深めて頂くというものです。																
実施内容	パネルに各団体の創意工夫を凝らして展示をして頂く。高さ180cm×横150cm 机希望により1台貸し出し。ポスターは大型プリンターの印刷はパネル展に限り無料で印刷できる。																

アンケート調査結果									
1.年齢	性別		2.何で知ったか		3. 見学された理由		5. 各クール印象に残った団体		
20歳未満	5	男	168	チラシ・ポスター	231	興味があるため	515	緑友会	24
20代	3	女	529	ホームページ	16	活動をしたいと考えているため	37	FA奈良	48
30代	5			twitter	1	人や団体を探しているため	14	折り紙ボランティア 「おりがみの輪」	44
40代	21			窓口で聞いて	110	以外の施設の利用のため	155	畑ヘルパー倶楽部	18
50代	24			知り合いから聞いて	191	4. ご自身の参考になったか		奈良シネマクラブ	18
60代	86			メール	8	参考になった	549	フードバンク奈良	31
70代	440			しみんだより	78	どちらともいえない	125	NPO法人宙塾	14
80代以上	151			その他	146	参考にならなかった	10	奈良おはなしの会	23
アンケート提出…合計748名 ※全ての問いに対して「回答なし」あり								アースディ奈良実行委員会	13

会場の様子



パネル展示の様子



参加者の意見

一般市民の方から：初代はやぶさの帰還以来宇宙の事に関心があります。私が子供の時にこんな教室があったらぜひ参加したいです。（日本宇宙少年団まほろば分団）思い出の多いおもちゃや捨てられない思いが伝わってくる。（健やか交流塾おもちゃ病院）発達障害の事はほとんど知らなかったが、ほんの少してあるがわかる機会を作ってくれた。（奈良県発達障害支援センターでいあー）活動の内容がよくわかった。お花が好きだから、寄せ植えがとても美しかった。（FA奈良）ボランティアの方々はいきいきとした表情をみて参加したいと思いました。（奈良マラソン）

出展団体：他の団体の展示が写真や飾りつけなど楽しそうな展示でよかったので、来年度は自分の団体の展示も考えたいと思った。
どの団体も参考になるところがあるし、印象に残る点がある。
他の団体の方にも関心を持っていただき、知って頂けるチャンスを取れ、また啓発の仕方を考える良いきっかけを頂けたと思いました。ありがとうございました。

HUG² (はぐはぐ) 祭り2019

日時	令和元年12月1日(日) 10:00~15:00		
形態	市民公益活動団体による、一般市民に向けての団体および活動の紹介・発表・PRイベント。		
内容	展示・体験・相談・物販等の出展ブース、踊り・演奏等のステージ発表、講演会、キッズ(折り紙・プラレール)コーナー、災害募金等の主催コーナー		
参加団体	【出展ブース/43団体】 【ステージ発表/11団体・1個人】 【展示コーナー/4団体】		
来場者	1,296人 (東西出入口2カ所で手動カウント)	ボランティア活動者数	【事前準備/149人】 【当日運営/67人】
満足度	【良かった81%】 【ふつう14%】 【良くなかった0%】 【その他5%】 (※回収総数278人分の来場者アンケートより)		
目的	市内で活動する様々な公益活動団体の取り組みを多くの市民に知っていただき、ボランティアやNPOについて興味や関心を深める機会を創出する。		
概要	総勢58団体が当イベントに集結し、来場した市民に向けて「活動のPRや発表」「ボランティア体験」「相談会」「講演会」などを実施しました。		

来場者アンケートの声

- たくさんのボランティア団体が出展していて、“時間があればぜひ活動に参加してみたい”と思えるような団体がいくつもあった。とても参考になった。
- 奈良市民でありながら、市内でこれだけのNPOやボランティア団体が活動していることを少しも知らなかったことが恥ずかしいです。ぜひ応援したいです。
- 親子で楽しめました。NPOやボランティアと関わる最初のきっかけとして、とても良いイベントだと思いました。
- 車椅子ってけっこう難しいって知ったから良かったです。(子ども)
- 電車でたくさん遊べて、風船もたくさんもらえて楽しかった。(子ども)

参加団体アンケート

- たくさんの子どもたちが来場してくれました。今後も、親子で来ても“楽しく”“ためになる”ようなイベントづくりを推進してほしい。
- 参加していてとても楽しいです。来年はもっと活動PRの工夫をしようと思いました。また、市民ボランティアの方々には本当に感謝しています。
- 年々にぎやかになっていると感じました。地域ボランティア団体のPRの機会となって良かったです。各ブースの団体の皆さんも楽しそうでした。
- 今年から会場が1Fと3Fに分かれて心配でしたが、スタンプラリーのおかげで多数の来場者が足を運んでくれました。
- チラシの事前配布や、参加団体説明会の時期を、もう少し早くしてほしいです。

会場の様子



2019サポーターズ会議（HUG²祭り運営実行委員会）

日時	令和元年 ①5月28日（火） ②6月25日（火） ③7月23日（火） ④9月24日（火） ⑤10月29日（火） ⑥12月17日（火） 以上、全6回すべて18：00～19：30に実施
形態	市民公益活動団体・一般市民・当センター職員・本課職員で構成された、「HUG ² （はぐはぐ）祭り2019」の企画・運営実行委員会
内容	①開催日時について ②イベント内容（各種コーナー・企画等）について ③出展/出演団体の参加条件・募集内容について ④団体のブース配置やステージ順番について ⑤広報展開や宣伝方法について ⑥イベントの総括と次回の展望について
参加者	団体所属者10名（7団体）・一般市民2名・当センター職員4名・本課職員2名
目的	当センター年間最大のイベントであり、50以上の市民公益活動団体が参加する「HUG ² 祭り」の開催にあたって、当事者である「参加団体」や「来場者（市民）」の様々な声（意見・要望・企画アイデア等）を積極的に取り入れてイベントに反映させることを目的とする。
概要	4月初旬に「サポーターズ会議」のメンバー募集を団体や市民に呼びかけ、第1回目の会議（5月）までに応募のあった団体・市民全員が参加するかたちで発足させる。その後は、各回ごとに議題やテーマを設定して、参加者の賛成多数を得ながら様々な内容を決定してゆく。

2019団体交流会

日時	令和元年11月16日（土）16：00～18：00に実施
形態	当センターに登録している市民公益活動団体の相互交流会
内容	各団体による活動紹介や名刺交換など
参加団体	24団体
目的	当センター登録団体相互の「交流」や「横のつながり」を促進することで、互いの活動で協力しあったりコラボレートできる機会を創出する。
概要	当センターで年間を通じてもっとも多くの団体が集まる日は、「HUG ² 祭り」当日、「HUG ² 祭り」事前説明会、以上の2日間となる。このうち事前説明会の日に（時間をずらして）「団体交流会」も実施することで、参加団体数の向上を図る。

団体交流会の様子



絵本リサイクル・リユース

日時	通年
目的	各家庭で不要になった絵本の有効活用
概要	不要の絵本、児童書を寄贈いただき（20P 付与）、清拭、補修の後配架。必要な市民に 1 回5冊を限度に持ち帰ってもらっている。

絵本リユース利用数

	寄贈		持ち帰り	
	冊数	人数	冊数	人数
4 月	483	25	238	98
5 月	102	8	217	111
6 月	182	11	340	126
7 月	136	9	342	127
8 月	58	7	113	48
9 月	232	13	402	66
10 月	131	16	110	53
11 月	456	11	127	57
12 月	159	108	192	72
1 月	214	15	313	39
2 月	118	9	223	98
3 月	252	18	124	38
合 計	2523	250	2751	933



事業名	リユースプラレール貸出事業												
開催日時	平成	31	年	4	月	1	日	から	通年で実施				
利用件数	12件							形態	物品貸出				
貸出先参加者	412名							満足度	5				
目的	子ども関係団体を中心に、寄贈頂いたプラレールを貸し出し、活動の充実に寄与する。												
実施内容	市民から寄贈いただいた不要となったプラレールを、NPO団体に貸し出しをする。												
アンケート調査結果							利用者の感想						
<ul style="list-style-type: none"> ・満足度のアンケートは全て満点の5となり、借りられた団体の活動に大きく貢献できたと言える。 ・5点の結果の中でも、「折れているレールがあった」「接触の悪い車両があった」とプラレールの状態についての意見を頂いた。状態を可能な限り良いものにして貸し出せるよう、に貸出後の整理により力を入れるしていく。 ・「去年と比べて管理しやすくなった」と評価を頂いた。昨年度までの段ボールから、衣装ケースに変更したためだと考えられる。 							<ul style="list-style-type: none"> ・プラレールコーナーを設けることで子どもの参加が増加。それに伴い、付き添う若い親世代が参加し、高齢者との交流の機会となった。 ・小学生ボランティアにプラレールコーナーを担ってもらうことで、小学生がリーダーシップを取り、大人に教えたり助けを求めたりすることで、家族以外の大人とのコミュニケーションを取りながら責任をもってやり遂げることができた。 ・沢山の方に利用して頂き、保護者同士の交流のきっかけとなった。 ・楽しみに時間に合わせて来てくれる方もたくさんいました。 						
担当者より							協力してパパ・ママで線路を組み立てていただいたので、みんなで楽しむことができた。						
<ul style="list-style-type: none"> ・「管理しやすさ」を目指し、プラレールの個数の確認表や、収納ケース内での整理のしやすさを改善し、利用団体の負担を減らしていく。 ・毎月1件以上の貸し出しがあり、継続的に利用している団体も多い。小さい団体にとって大量のプラレールを保管しておくことは難しい。そういう団体にとって、当事業は地味ながらも子ども関係の市民公益活動に役立っている。 							<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちのあそび場として、家にプラレールが無い子も楽しく遊ぶ機会を提供できた。 ・父親の参加に繋がった。 						

市民ボランティア（一般・親子・子ども）

期 間	平成31年4月～令和2年3月（通年）
形 態	市民（奈良市内在住・在勤・在学）による、当センター施設内でのボランティア活動全般
内 容	①当センターが発行する情報冊子（ボランティア・メンバー募集等）の製本ボランティア ②当センターが主催する講座の当日運営補助ボランティア ③当センターが主催するイベントの事前準備作業・当日運営補助ボランティア
参加者	225人 …【内訳】 ① 49人 ② 30人 ③ 146人（うち子ども17人） ※すべて延べ人数となります
目的	ボランティア未経験者・初心者の市民を対象に、ボランティア活動の魅力が気軽に体験できる機会を当センター内で創出し、幅広い市民にボランティアへの興味を持っていただく“きっかけづくり”を促進する。
概要	おもに、当センター主催の講座参加者や窓口相談者に呼びかけて「市民ボランティア」登録をしていただき、当センター内でボランティアが必要になった場合は、その都度、登録者に連絡して参加の可否を確認する。

市民ボランティアの活動風景



- ④当センター主催イベント当日の出入口受付で、来場した子どもたちに缶バッジを配布する「親子ボランティア」
- ⑤当センター主催イベントの準備で、名札や看板等の制作をおこなう「一般市民ボランティア」
- ⑥当センター主催イベントの準備で、当日配布用パンフレットの製本作業をおこなう「子どもボランティア」
- ⑦当センター主催イベントの準備で、当日来場した子どもたちに配布する缶バッジ制作をおこなう「親子ボランティア」

